

現行システムの塩漬けから解放する
<実践型> ITモダナイゼーション

1

なぜITモダナイゼーションは必要か？

1 - 1. はじめに

■なぜITモダナイゼーションが**必要**なのか？

レガシーシステムの抱えるリスク

複雑化
肥大化

ブラック
ボックス

システム
老朽化

機能・性能の制限

柔軟性の低下

業務の属人化

リスク
解消

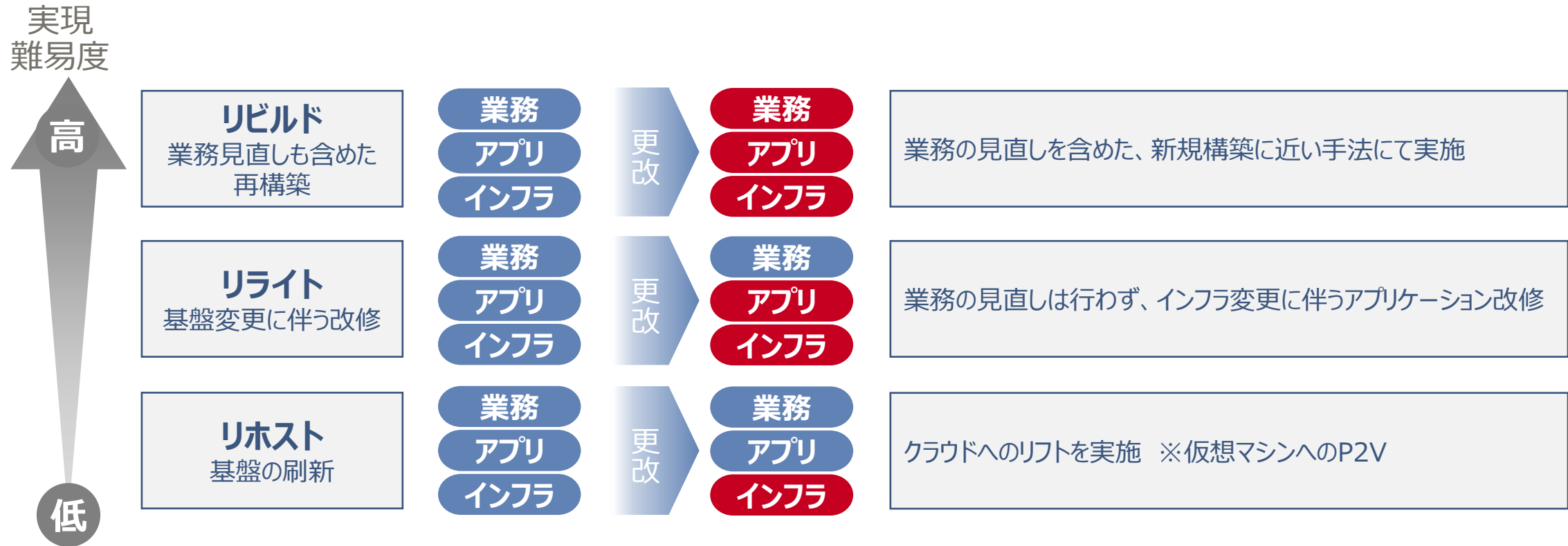
企業の競争力を向上させるためには

ITモダナイゼーションが必要

1 - 2. ITモダナイゼーション 3つの方法

■実現するための3つの方法

ITモダナイゼーションの実行は、具体的に以下の3つの方法があります。
それぞれの方法には一長一短がありますので、どの方法が最適かを検討する必要があります。



※IPA 「システム再構築を成功に導くユーザガイド」から引用

1 - 2. ITモダナイゼーション 3つの方法

■実現するための3つの方法

ITモダナイゼーション実現方法それぞれのメリット、デメリットは以下のとおりです。

方法	メリット	デメリット
リビルド	レガシーシステムを抜本的に見直すことにより、高い生産性とビジネスの変化に対し柔軟に追従することが可能となる	投資に多額のコストが必要であり、また業務プロセスの見直しには長期間を費やす
リライト	既存IT資産の活用が可能であるため、新しいテクノロジーの利用においてはリビルドよりコストを抑えることが可能である	既存IT資産活用が前提となるため、リライト対象システムに関するドキュメントが整備されており、かつ識者の介在が必要である
リホスト	ハード、OS面でのクラウドのメリット※を容易に享受することが可能である	ソフトウェア面は旧態依然であるため、業務面でのメリットは享受しやすくビジネス変化への追従も乏しい

※スケールの容易性、システム運用費用の低減、分散など

1 - 3. アプリケーションのモダナイゼーション

■適用パターンと実現難易度

リビルドを選択した場合、アプリケーションレイヤにおいてどの程度「モダナイゼーション」を進める必要があるか、現状を鑑み判断する必要があります。

実現
難易度

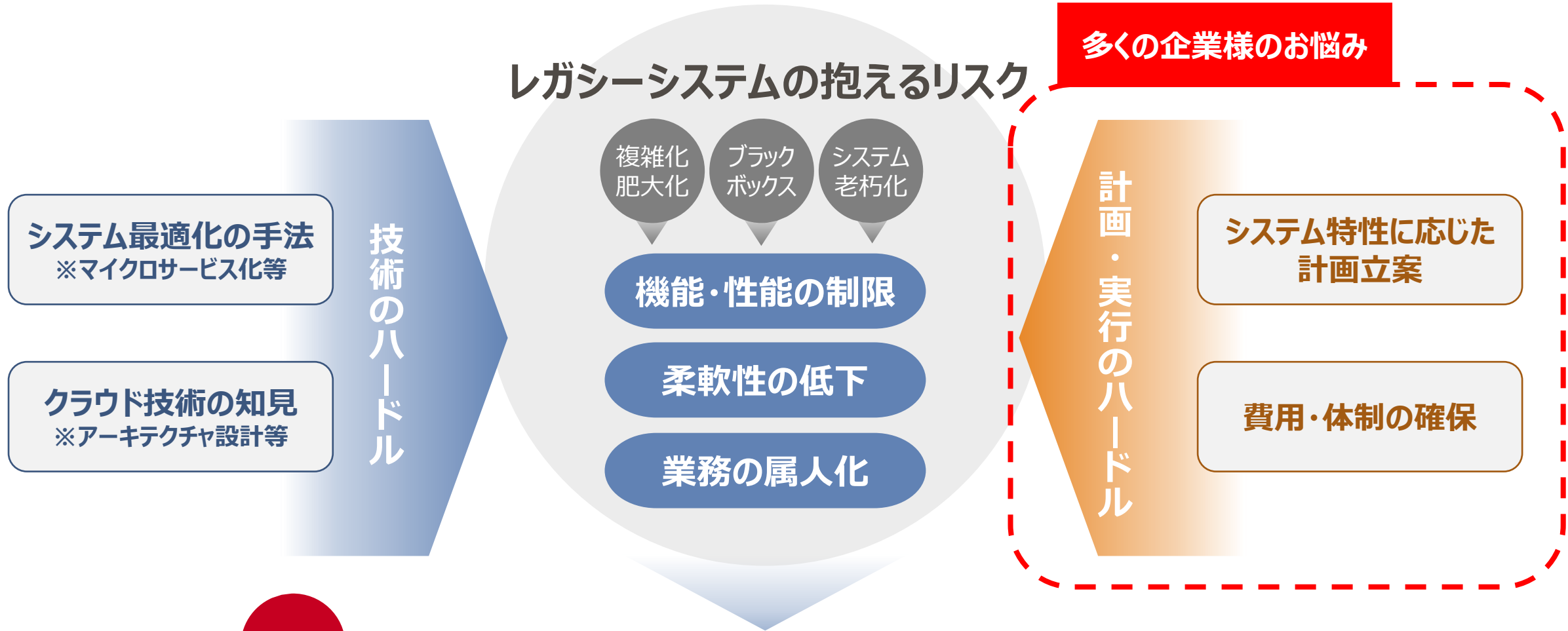
高

低

適用パターン	対応概要	適用条件
マイクロサービス化	複雑化したアプリケーションを解きほぐし、機能毎に再整理・再開発	✓ システム仕様及び機能要件が可視化されていること
API化	アプリケーション間の窓口をつくり、複雑に入り組んだ機能の交通整理を実施 ※マイクロサービス化、PaaS化を行う際はAPI化も組み合わせ対処	✓ アプリケーションの複雑性が高くないこと
PaaS化	クラウドのメリットを最大化できるアーキテクチャを基準に、アプリケーションの改修を実施	✓ 現行システムのOS・ミドルウェアへの依存度が低いこと
コンテナ化	インフラとの関連性を極力排除し、運用性を向上	✓ 現行システムのOS・ミドルウェアへの依存度が低いこと ✓ アプリケーション言語やフレームワークと互換性のあるコンテナイメージが存在すること

1 - 4. ITモダナイゼーションは難しい？

■なぜITモダナイゼーションは難しいのか？



課題

技術的なベストプラクティスだけを知っていても
現実解を導き出せない

1 - 4. ITモダナイゼーションは難しい？

■ITモダナイゼーション実現を阻む2つのハードル

- **技術面（手段）**

情報収集は比較的容易である一方、既存システムに縛られない新規構築を前提としたベストプラクティスの類が多く、実際の現場で活用するための応用力は各人に委ねられる傾向があります。

- **計画・実行（実現）**

各企業様のビジネス特性や既存システムの置かれる状況、ITモダナイゼーション推進に割けるリソース等を鑑みた現実解に落とす必要があります。

そのため、実現性・有効性ともに高い計画の立案が難しく、計画を開始しても実行段階で頓挫してしまうリスクも高まります。

また、自社での推進をあきらめ、ゴールイメージがない中でベンダーに見積りを依頼すると、提示された見積りが想定より高額となり、最終的にはクラウドへのリフト（リホスト）までとする課題の本質を解消できないケースも散見されます。

お客様に寄り添った

伴走型の支援メニューをご準備

2

STSのモダナイゼーション

2-1. コンセプト

■ <実践型> ITモダナイゼーションのアプローチ

- **お客様のコンディションに合わせた計画・実行**

アセスメントにてシステムの調査・分析やお客様へのヒアリングを実施することで、お客様の業務特性やシステムの状況に応じた費用対効果の高いPoCの計画を策定します。

また、PoCにおいては対象システムをクラウド上に復元し、モダナイゼーション方針に則り、いくつかの機能をモダナイゼーション化し実装し、実証検証を行います。

- **お客様の計画推進に必要な道具立ての支援**

PoCにおいて、モダナイゼーション実現に必要なタスク整理、課題抽出と対策案、SI費用、運用業務における変更点等の情報を整理して評価レポートとして具体をご提示します。

さらにはオプションプランとして、PoCで得られたノウハウをもとにRFP作成が可能です。これにより、弊社以外の専門事業者からの意見や提案を受けやすくなったり、プロポーザル方式による事業者選定を行う（※1）等の選択肢を増やすことが可能です。

※1）RFP作成では無く、弊社が続けてITモダナイゼーションの推進を行うことも可能です。
また、プロポーザル方式による事業者選定においては、弊社も参加させていただきたい考えです。

2-2. ITモダナイゼーションメニュー

お客様システムのモダナイゼーション実現する2つのプラン ※内容は後述

ベーシックプラン

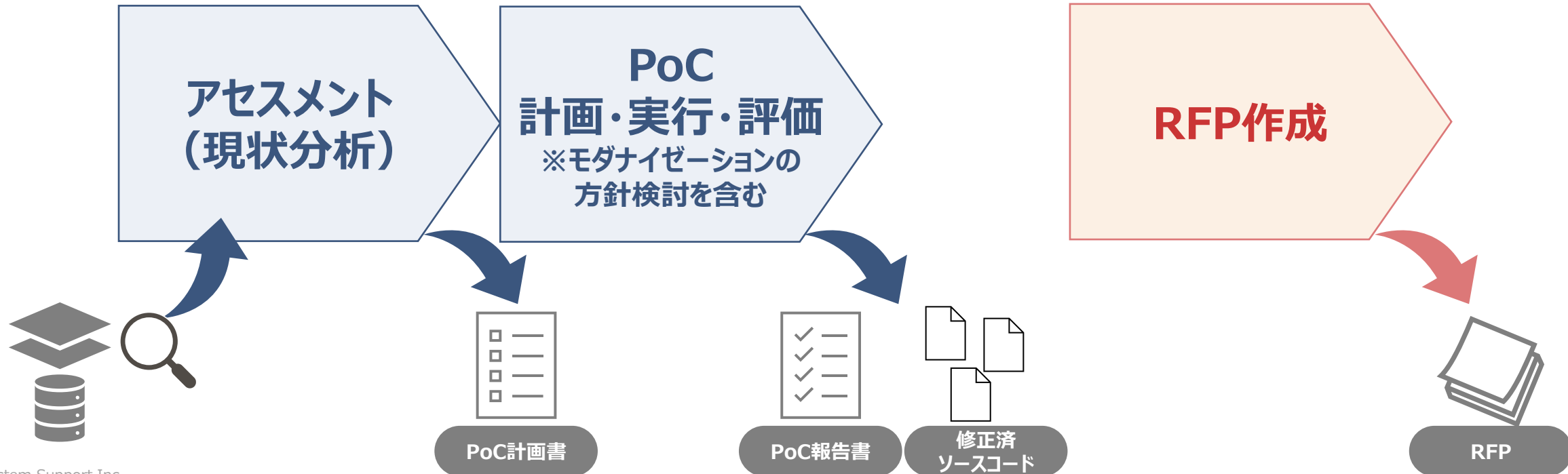
調査
分析 情報
提供 助言

- ✓ 弊社の知見をベースにお客様環境を診断し、一部機能を対象にモダナイゼーションをPoC形式にて実践
- ✓ モダナイゼーションの実現に必要なコスト感や、解決すべき課題等を導出

オプションプラン

実現
推進

- ✓ PoCから得られた情報をもとに、モダナイゼーション実現に必要な事項を要求仕様として整理、課題を明示



2-2. ITモダナイゼーションメニュー

■ベーシックプラン

お客様環境情報をもとにアセスメントを実施、クラウド上にPoC環境を構築し評価します。ベーシックプランはアプリケーション、データベースの2軸でのモダナイゼーションアプローチとなります。

区分	プログラム概要	参考価格
APPモダナイゼーション	<p>お客様の実サービスを利用し、その中からPoC対象となる機能をピックアップし、マイクサービス化を目指した実現性を検証します。</p> <p>PoCでのモダナイゼーション適用パターンは、事前のアセスメントの結果を踏まえて決定します。</p>	1,600,000
DBダウンサイジング	<p>Oracle Database等の商用データベースからの脱却を前提に実現性を検証します。</p> <p>お客様から検証環境のスキーマ定義・バックアップデータを提供いただき、SQL ServerやPostgreSQL環境へのマイグレーション実行を経て、課題抽出や本番作業に要するコスト感をご提示します。</p>	1,400,000
合計		3,000,000

2-2. ITモダナイゼーションメニュー

■オプションプラン

ベーシックプランで得られたノウハウをもとに、モダナイゼーション実現に向けた具体的な計画やモダナイゼーション要求事項をRFP（調達仕様書）形式でご提示します。

区分	プログラム概要	参考価格
RFP作成	ベーシックプランの実行結果をもとに、現行システムの特徴や、モダナイゼーション実現に必要な事項を要求仕様として整理します。また課題を明示することで業者から情報収集すべき事項を明らかにします。	1,000,000
	合計	1,000,000

2-3. ITモダナイゼーション 詳細

■モダナイゼーションにおける考慮事項

• DBダウンサイジング

弊社のモダナイゼーションの取組においては、DBダウンサイジング（※1）を行う場合、アプリケーション側の改修範囲を調査します。

既存DBに特化した機能（プロシージャ、ファンクション等）を多く利用している、アプリケーションにSQLを散りばめている、ORM（※2）を利用している、等のケースに該当する場合は、DBダウンサイジングに大きなコストが掛かる傾向があります。

※1) ここではライセンス費用が高額な商用製品からOSS（PostgreSQL等）への変更を示す。

※2) 開発効率の向上を目的とし、アプリケーション言語の記法でDB操作を行うフレームワーク

• 外部インターフェース

これまでの説明はモダナイゼーション対象のシステムに焦点をあてた記載としていましたが、モダナイゼーションの実現性の観点においては、外部システムとの連携が多いシステムにおいては、外部システムまで調査対象を広げた影響確認が必要となります。

お問い合わせ先

ITモダナイゼーションのご相談は…

お気軽にお問い合わせください。

■お電話でのお問い合わせ

電話番号 03-3342-9620

受付時間：平日 9:00～18:00

■メールでのお問い合わせ

メールアドレス

ml-cloud-all@sts-inc.co.jp

Thank you

 システムサポート